

令和3年度 第3回生駒市行政改革推進委員会 会議録

開催日時 令和3年11月1日（月） 午後2時30分～午後4時30分

開催場所 生駒市役所 403・404会議室

出席者

（委員） 森委員長、高山副委員長、稲山委員、松岡委員、森岡委員、松山委員、新子委員、田中委員

（事務局） 杉浦総務部長、武元行政経営課長、後藤行政経営課課長補佐、天野財政課主幹、岡田行政経営課主幹兼経営係長、島田行政経営課同係主任

（傍聴者） なし

1 開会

2 案件

前期行動計画の取組状況の確認について

（事務局） 【資料1 行政改革大綱 前期行動計画 取組状況評価報告書（案）【令和元年度及び令和2年度】について説明】

（委員長） 1ページから4ページの総括と63ページのおわりにについて意見を出してもらおう。何か意見はあるか。何か分科会ごとの特徴はあったか。

（事務局） 分科会ごとに大きな違いは見られなかった。

（委員） 外部からの視点で評価するには資料が足りず、評価がしにくかった。分科会②ではそのような意見は出なかったのか。

（委員） 示された資料だけでは、量的な評価は出来ても質的な評価が出来ないという指摘があった。指標自体に対する疑問も出された。

（委員長） 指標が合っているか合っていないかという指標自体の問題と、この指標で良いが本当にきちんと成果として表れているのかという問題がある。この取組をして、本当に良くなったのかという成果意識を行政は持っているのか。

（事務局） 議会から決算審査のときに成果等を示す評価シートの提出を求められていることもあり、少しでも成果が上がるように取組む必要があるという意識は高まってきているのではないかと考えている。

（委員長） 予算が毎年度ひっ迫してくるので、財政を見直すためには、成果に着目するしかない。この視点はこれからどんどん必要になってくる。

（委員） 全てにおいて成果が求められる時代になっている。今後は、行政側が示した成果を評価する側の見識が問われる。

（委員長） 今の議論は非常に重要である。しかし、成果が重要であることは分かるが、それをどうすれば実践できるのか。本委員会できちんとチェックしていく必要がある。

（委員） 他の部門でも本委員会のようなチェックする組織をつくらなければ、市政は良くなっていかないと思う。

- (委員) 近年は何事にも成果を求められるが、必ずしも成果が出るとは限らない。成果が出なくても、なぜ成果が出なかったのかという点を分析して評価する必要がある。結果が悪かったで終わりにするのではなく、なぜ悪かったのかということ进行分析して、評価を求めるという方法をとる必要がある。成果が全てというように感じた。
- (委員) 資料がこれだけで良いのかという課題はある。この資料だけで評価すると、件数のみでの評価になってしまう。もっと担当課に質問し、担当課の考えを聞いたうえで議論する方が良かった。
- (委員長) この指標で成果がきちんと図れているのか分からないのに、指標を達成しているだけでA評価としてしまっているのかという意見である。評価する中で、生活しているの実感と合わないということもあったと思うが、どうか。
- (委員) 資料をもとに評価をしてほしいと言われたが、書かれている項目が少なく、また、定量的な評価か定性的な評価かが分からず、評価しにくかった。普段接しない事業については、そもそもどういった事業なのかが分からなかった。
- (委員) 誰のために何をするのかという説明を受けたうえで評価する方が分かりやすかった。こういう課題があるのでこういう取組をしているというアプローチが、普段から行政側からあれば分かりやすいと思う。
- (委員) 生駒市に住んでいるが、このような取組は知らなかったというものはあるか。
- (委員長) ミライ会議は、一部地域を対象としている。テーマと取組内容や指標が結びつきにくく情報も不足していた。
- (委員) 「市民のまちづくりへの参画」という取組項目でありながら、一部の地域だけを対象とした取組であり、違和感をもった。テーマと取組内容や指標が乖離しているし、そこに対して説明がない。
- (委員長) 一部の地域のみを対象としたこの取組が、地域特性に応じたまちづくりと言えるかは疑問である。行政は数値で成果を表すものに引っ張られがちだが、その施策で本当にまちが発展しているのか。それは肌感覚で感じる部分が多い。
- (委員) 一律数値だけで評価をするという方法は見直した方が良いと思う。そうでなければ、今後も同じ評価になってしまう。
- (委員長) 次回評価するときどのように進めていくのかが大事である。しかし、感覚だけで評価するのは客観性がないので、何らかのエビデンスが必要である。どういう指標があれば良いのか。
- (事務局) 事務局が今回評価していただく中で課題に感じている点は、取組により解決すべき課題の共有ができていなかったという点である。こういった課題があるので、このような取組をするといった流れが行動計画には書いているが、評価シートには書いておらず、評価していただく前段階の準備が足りなかった。次回評価する際は、事務局で、行動計画の内容と担当課からの取組などを組み合わせて、一連の流れが分かるような資料を作成する。また、各委員から事前に出てきた質問に対する回答について、会議の中で説明をしなかったため、委員全員が共通の認識を持って評価できていなかったということも課題として考えられる。
- (委員) 各項目について事務局から説明を受け、分科会で議論をしたうえで、評価をすれば変わ

ったかもしれない。

- (委員) 都市計画課としては、ミライ会議は様々な取組の中のひとつだが、委員からすればここに書かれていることが全てなので一部地域に偏った取組であるという意見になってしまう。
- (事務局) 取組内容がタイトルやテーマのようなものになっているため、取組の内容と合わないという印象を与えてしまった。先に内容を書いて、最後にタイトルを記載すれば頭に入りやすいかなと思った。
- (委員長) 意見をまとめると、資料の見え方として、全体の体系が分かりにくく、何をしているのかという相対的な位置についてきちんと説明すれば分かりやすかったのではないかということ。もう一点は、評価の視点がぶれたということ。今後の課題やそれに対する次年度の取組についてどのように評価に反映させるのかという点について全体のコンセンサスが取れていなかった。課題に対してどのように考えているのかという点を重視するのであれば来年度の取組についても見たうえで評価する必要があった。また、行動計画に既に指標が定められているということを共通の認識を持って議論すべきだった。ただし、この指標で良かったのかという議論は必要であり、それは後期行動計画に反映させていく必要がある。
- (委員) 指標を変えることはできるのか。
- (事務局) 行動計画に記載しているので変えられない。後期行動計画の指標設定はこれから行うので、変更できる。ただし、取組自体が変更になる場合もある。
- (委員) 取り上げる項目はこのままなのか。取組をどういう視点で捉えるかという点を変えることは可能ということか。
- (事務局) そのとおりである。大綱で定めている5つの取組方針と主な取組項目については変更できない。それに基づき具体的にどのような取組をするのか、どのような指標を設定するのかという点は後期行動計画で定めるので変更可能である。指標数はこれで良いか。
- (委員長) 取組項目によって、必要な指標の数も変わってくると思う。
- (委員) 全てを体系化して説明してほしいわけではなく、大きな取組の中のここに位置付けられた取組内容であり、この部分を評価してほしいという点を最初に説明してもらったうえで評価すれば、議論がスムーズに進んだと思う。また、HPのここに情報が載っているという情報を提供してもらえればこちらで検索できた。
- (委員長) 共通の認識をもったうえで評価すべきだったという意見だと思う。
- (委員) 目標値と実績値の差分理由の欄はもう少し具体的に書いてもらえると分かりやすい。例えば、女性管理職の割合について、少しずつ上がっていているから良いと思うが、管理職試験を受けたい女性職員はどれぐらいいるのか。なりたい職員が何人いてそのうち何人が管理職になったのかということが分かればより分かりやすい。
- (委員長) 女性管理職の割合が0.6%上がったとあるが、管理職になりたい女性職員が全員なれているなら良いと考えるのであれば0.6%増えていけば良いが、女性管理職の比重を増やさないと市民にとって良い行政にならないと考えているのであれば0.6%では増えたとはいえない。そういった情報があるとないでは評価が大きく変わってくる。他に意見はあるか。

- (各委員) 特になし
- (委員長) 今年度の報告書については、設定された指標に基づいて評価したということで良いか。
- (委員) 今回はこれで良いと思うのだが、分科会で各項目について議論をしたので、その議論の内容を個票のコメント欄に追記してほしい。
- (委員) 評価に至るまでの論議の経緯を記載すれば分かりやすい。部外評価を積極的にしているということを見せることも大事だと思う。
- (委員長) そのとおりである。
- (委員) 議事録の中からピックアップして記載してほしい。
- (委員長) 事務局が記載し、各分科会に確認してもらえば良い。
- (委員) こんな意見があるのかということを感じ、今後の仕事に活かしてもらいたい。そうすることで報告書がもっと意味のあるものになる。
- (委員) 4ページについて、元年度と2年度では取組内容が違う部分があるので、結果を比較するのが良いのかという点が疑問である。その点について説明をするか、元年度と2年度を分けて書くなどした方が良い。
- (事務局) 4ページの「(1) 評価結果の推移」を削除し、「(2) 今後の課題等」に2年度分まとめて評価したことによるコメントや課題等を記載する。
- (委員長) 後期行動計画につなげるべき課題等はあるか。
- (委員) 今日議論した内容からピックアップして記載してもらいたい。
- (委員長) 今日出てきた意見を網羅的に記載してほしい。
- (事務局) 承知した。
- (委員) 報告書はこの後どうなるのか。
- (事務局) 修正した報告書(案)を後日メールで送付する。それを確認していただき、最終調整は委員長とさせていただきたい。
- (委員長) よろしいか。
- (各委員) 了承

3 その他

- (事務局) 会議録とあわせて、修正した報告書(案)を送らせていただくので、修正等あれば指摘していただきたい。細かい部分は森委員長と調整させていただく。

閉会